



Voicemail Pro IP Office モードのメールボックスを使用する

通知

本ドキュメントに記載する情報を作成時点で完全かつ正確なものにするために十分な注意を払っておりますが、Avaya はいかなる誤りに対しても責任を一切負いません。Avaya は個人や団体に対し、事前の許可なく本ドキュメントに記載されている情報を変更・修正する権利を保有しています。

本ドキュメントにおける免責事項

「ドキュメント」とは、一般に製品のユーザーに対して提供する製品情報、操作方法、性能規格などを含む情報で、さまざまな媒体で発行されます。ドキュメントに販売用資料は含まれません。Avaya は、ドキュメントの初版に対するいかなる変更、追加、削除に対しても、それらが Avaya により、または明確に Avaya の代理として実行されたものでない限り、責任を負いません。エンドユーザーは、エンドユーザーの範囲内で本ドキュメントを修正、追加、削除したことによって生じる、またはそれに関連するいかなる申し立て、訴訟、請求、判決に対しても、Avaya、Avaya 代理人、従業員を免責することに同意するものとします。

リンクに関する免責事項

Avaya は、サイト内および Avaya が提供しているドキュメントにおいて参照されているリンク先の Web サイトのコンテンツや信頼性について一切責任を負いません。また、そのようなリンクで説明、提供された製品、サービス、情報の正確性は、必ずしも Avaya の保証の対象になるものではありません。Avaya では、このようなリンクが常に機能することは保証できません。また、リンクされたページが利用できるかどうかについても管理は行っていません。

保証

Avaya は、Avaya のハードウェアおよびソフトウェアに対し、限定保証を提供しています。お手持ちの販売契約書を参照して限定保証の条項をご確認ください。また、Avaya の標準保証規約、およびこの製品の保証期間中に利用可能なサポート情報は、Avaya サポート Web サイト (<https://support.avaya.com/helpcenter/getGenericDetails?detailId=C20091120112456651010>) の「Warranty & Product Lifecycle」リンク内)、または Avaya が指定する後継サイトに掲載されています。米国およびカナダ以外の Avaya 認定チャネルパートナーから本製品をご購入された場合は、保証の提供元は Avaya ではなく、この Avaya チャネルパートナーとなることに注意してください。

「ホステッドサービス」とは、Avaya または正規の Avaya チャネルパートナー (いずれか該当するもの) のいずれかからお客様が入手する Avaya ホステッドサービスサブスクリプションであって、該当のホステッドサービスに関するホステッド SAS またはその他のサービス説明書に詳述されるもののことです。ホストサービスサブスクリプションを購入する場合、お客様には前述の限定保証は適用されない場合がありますが、当該ホストサービスに付随するサポートサービスは、該当ホストサービスのサービス説明ドキュメントの詳述に沿って受けることができます。詳しくは、Avaya または Avaya チャネルパートナー (いずれか該当するもの) にお問い合わせください。

「ホステッドサービス」とは、Avaya または正規の Avaya チャネルパートナー (いずれか該当するもの) のいずれかからお客様が入手する Avaya ホステッドサービスサブスクリプションであって、該当のホステッドサービスに関するホステッド SAS またはその他のサービス説明書に詳述されるもののことです。ホストサービスサブスクリプションを購入する場合、お客様には前述の限定保証は適用されない場合がありますが、当該ホストサービスに付随するサポートサービスは、該当ホストサービスのサービス説明ドキュメントの詳述に沿って受けることができます。詳しくは、Avaya または Avaya チャネルパートナー (いずれか該当するもの) にお問い合わせください。

ホストサービス

以下はお客様が Avaya または Avaya チャネルパートナー (該当する場合) よりホステッドサービスサブスクリプションをご購入した場合にのみ適用されます。ホステッドサービス利用規約は Avaya Web サイト [HTTPS://SUPPORT.AVAYA.COM/LICENSEINFO](https://support.avaya.com/licenseinfo) の「Avaya Terms of Use for Hosted Services」(Avaya ホステッドサービス利用規約) または Avaya の指定する後継サイトに記載されており、Avaya ホステッドサービスにアクセスする、またはこれを利用するすべてのユーザーに適用されます。ホステッドサービスにアクセスする、またはこれを利用する、あるいは他者にアクセスまたは利用を許可することで、お客様は、お客様ご自身ならびにお客様が代理となってこれらの行為を行う団体 (以下、状況に応じて適宜「お客様」および「エンドユーザー」) を代表し、利用規約に同意するものとみなされます。お客様が会社またはその他法人を代表して利用規約に同意した場合、お客様は当該団体を利用規約に従わせる権限を有することを表明したことになります。そのような権限をお持ちでない場合、または利用規約に同意することを希望しない場合、お客様はホステッドサービスにアクセスしたり当該サービスを利用したりすることはできず、他者にホステッドサービスへのアクセスまたは利用を許可することもできません。

ライセンス

Avaya の Web サイト (<https://support.avaya.com/LicenseInfo>) の「AVAYA SOFTWARE LICENSE TERMS (Avaya Products)」リンク内)、または Avaya が指定する後継サイトに掲載のソフトウェアライセンス条項は、Avaya または Avaya チャネルパートナーとの

取引契約に基づき、Avaya Inc.、Avaya 関連会社または Avaya チャネルパートナー (これらのうちいずれか該当するもの) から購入した Avaya ソフトウェアをダウンロード、使用および/またはインストールしたすべてのユーザーに適用されます。Avaya、Avaya 関連会社、または Avaya チャネルパートナー以外からソフトウェアを入手した場合、他の書面による Avaya との同意がない限り、Avaya はこのライセンスを拡張しません。また Avaya は、ライセンスなしにソフトウェアを使用・販売する人物に対して法的措置を取る権利を保有します。ソフトウェアのインストール、ダウンロード、および使用、または他者にそれらの行為を許可することで、お客様は、お客様ご自身ならびにお客様が代理となってこれらの行為を行う団体 (以下、「お客様」および「エンドユーザー」) を代表し、お客様と Avaya もしくは Avaya 関連会社 (以下、「Avaya」) 間で使用許諾に合意し、契約が成立するものとします。

ライセンス範囲の詳細が以下に記載されている旧 Nortel ソフトウェアを除き、Avaya は、下記に示すライセンスの種類範囲内でお客様にライセンスを供与します。ライセンスのタイプが注文ドキュメントで明示されない場合、適用可能なライセンスは、該当する場合、後述の「指定システム (DS) ライセンス」セクションで規定される指定システムライセンスと見なされます。ライセンスの適用数およびライセンスが供与される容量単位は 1 とします。ただし、それ以外のライセンス数、または容量単位が該当のドキュメントまたはお客様に提供されるその他の資料に記載されている場合を除きます。「ソフトウェア」とは、スタンドアロン製品かハードウェアへのプレインストール製品かを問わず、Avaya または Avaya チャネルパートナーが提供しているオブジェクトコードのコンピュータプログラム、およびそのアップグレード、アップデート、バグ修正、または修正版を指します。「指定プロセッサ」とは、単一のスタンドアロンのコンピュータデバイスを意味します。「サーバー」とは、複数のユーザーが利用するソフトウェアアプリケーションをホストする (物理的または仮想的な) 指定プロセッサを意味します。「インスタンス」とは、(i) 1 台の物理マシンにおいて、または (ii) 1 台のソフトウェア展開済み仮想マシン (「VM」) またはこれに類するデプロイメントにおいて、特定の時間に実行されるソフトウェアの単一のコピーを意味します。

ライセンスタイプ

指定システムライセンス (DS) : エンドユーザーがインストールおよび使用できる本ソフトウェアの各コピーまたはインスタンス件数は 1) 注文書に明示される指定プロセッサ数、または 2) 注文書やドキュメントに明示されるか Avaya によって書面で承認されるソフトウェアのインスタンス数を上限とします。Avaya は、注文書に明記されている指定プロセッサの識別に必要な、種類、シリアル番号、機能キー、インスタンス、場所または他の固有情報の提供をお客様にお願いする場合があります。または、Avaya がこの目的のために指定する電子的手段により、エンドユーザーが前述の情報を Avaya に提供するように依頼する場合もあります。

コンカレントユーザーライセンス (CU) : エンドユーザーは、本ソフトウェアにアクセスし、使用するユニットの数が、いかなる時点においても、注文書もしくはドキュメントに記載された、または Avaya により書面で承認された使用許諾数を超えない限り、本ソフトウェアを複数の指定プロセッサ、または 1 台以上のサーバーにインストールして使用できます。「ユニット」とは、Avaya が単独の裁量でライセンス料設定の基礎とする単位を意味します。なおユニットには、エージェント、ポートもしくはユーザー、個人もしくは職務名義 (ウェブマスター、ヘルプデスクなど) の電子メールアドレス、または本ソフトウェアで使用する管理データベースにおいて特定のユーザーと本ソフトウェアのインターフェイスとなるディレクトリエントリが含まれますが、これらに限定されません。ユニットは、特定の、識別されたサーバーまたは本ソフトウェアのインスタンスにリンクさせることができます。

クラスターライセンス (CL) : エンドユーザーは、注文書もしくはドキュメントに記載された、または Avaya により書面で承認されたクラスター数までに限り、本ソフトウェアの各コピーまたはインスタンスをインストールして使用できます。指定されていない場合は、デフォルトのクラスター数は 1 つです。

エンタープライズライセンス (EN) : エンドユーザーは、注文書もしくはドキュメントに記載された、または Avaya により書面で承認された、企業全体での本ソフトウェアの無制限のインスタンス数の使用に限り、本ソフトウェアの各コピーまたはインスタンスをインストールおよび使用できます。

特定ユーザー数ライセンス (NU) : エンドユーザーは、注文書もしくはドキュメントに記載されているように、または Avaya により書面で承認されたように、(i) 承認された指定ユーザー (以下に定義) 1 人につき、単一の指定プロセッサまたはサーバーで本ソフトウェアの各コピーまたはインスタンスをインストールして使用できます。あるいは (ii) 承認された指定ユーザーのみが本ソフトウェアにアクセスして使用する場合に限り、1 台のサーバー上に本ソフトウェアの各コピーまたはインスタンスをインストールして使用できます。

ソフトウェアの各コピーまたはインスタンスをインストールして使用できます。「指定ユーザー」とは、Avaya が本ソフトウェアへアクセスし本ソフトウェアを使用することを明示的に認めたユーザーまたはデバイスを意味します。なお、Avaya の単独の裁量により、「指定ユーザー」は、特定の情報によって指定される場合があります。かかる情報の例として、氏名、職務名（ウェブマスター、ヘルプデスクなど）、個人や職務名の電子メールもしくはボイスメールアカウント名、または特定のユーザーと本ソフトウェアのインターフェイスとなる、本ソフトウェアで使用される管理データベース内のディレクトリエントリ名が挙げられますが、これらに限定されません。

シュリンクラップライセンス (SR) : エンドユーザーは、注文書もしくはドキュメントに記載されているように、または Avaya により書面で承認されたように、本ソフトウェアに付属する、または適用される「シュリンクラップ」または「クリックスルー」ライセンス (以下、「シュリンクラップライセンス」といった使用許諾契約の契約条件に従い、本ソフトウェアをインストールして使用することができません。

トランザクションライセンス (TR) : エンドユーザーは、特定の期間中に指定され、注文書もしくはドキュメントに記載された、または Avaya により書面で承認されたトランザクション数まで本ソフトウェアを使用できます。「トランザクション」とは Avaya が自己の裁量で、ライセンスの価格設定の基礎とするユニットを意味し、本ソフトウェアの使用、アクセス、インタラクション (クライアント/サーバー間もしくはカスタマー/組織間)、または特定の期間内 (例えば、時間ごと、日ごと、月ごと) における本ソフトウェアの操作によって測定されることが可能ですが、これらに限定されません。トランザクションの例には、それぞれのあいさつの再生/メッセージ待機の有効化、パーソナライズされたプロモーション (任意のチャネル)、コールバック操作、ライブエージェントまたは Web チャットのセッション、通話のルーティングまたはリダイレクト (任意のチャネル) が含まれますが、これらに限定されません。エンドユーザーは Avaya の事前の同意と追加料金の支払いなしに、指定されたトランザクション数を超えることはできません。

Heritage Nortel ソフトウェア

「旧 Nortel ソフトウェア」とは、2009 年 12 月の Nortel Enterprise Solutions Business の事業譲渡の一部として Avaya によって取得されたソフトウェアを意味します。現在、旧 Nortel ソフトウェアは、<https://support.avaya.com/LicenseInfo> にある「Heritage Nortel Products」リンクの Heritage Nortel Products リスト内、または Avaya によって指定された後継サイトに記載されているソフトウェアです。旧 Nortel ソフトウェアに関して、Avaya はお客様に対して、本ソフトウェアライセンス条件にもとづき、本ドキュメントに記載された目的のためのみに、かつ埋め込んだ状態でのみ、実行のために、Avaya 機器とのコミュニケーションのために、承認されたアクティベーションまたは承認された使用レベルの範囲で、旧 Nortel ソフトウェアを利用するライセンスを付与します。Heritage Nortel ソフトウェアの料金は、注文書または請求書に記載されるとおり、承認を得たアクティブ化または使用の範囲に基づくこととなります。

著作権

別段に明記される場合を除き、Avaya が提供する本サイトのコンテンツ、ドキュメント、ソフトウェア、ホストサービス、ハードウェアを使用することはできません。Avaya が提供する本サイトのコンテンツ、ドキュメント、ホステッドサービス、製品 (コンテンツの選択、配置、デザインを含む) の所有権は Avaya またはそのライセンス供与者が保有しており、著作権法や他の知的財産権法 (データベース保護に関する独自の権利を含む) によって保護されています。Avaya による明示的な許可がない限り、内容の全部または一部 (コードやソフトウェアを含む) を、手法を問わず、修正、模写、複製、再版、アップロード、投稿、転送、配布することはできません。Avaya の書面による明示的な同意なく、これらを複製、転送、配布、保存、使用することは、適用法のもとで刑事上および民事上の犯罪になる場合があります。

仮想化

以下の規定は、製品が仮想マシンに配置される場合に適用されます。各製品には独自の注文コードとライセンスタイプがあります。別段の定めがある場合を除き、製品の各インスタンスについてそれぞれライセンスを取得し、発注する必要があります。たとえば、エンドユーザーまたは Avaya チャネルパートナーが同じ種類の製品のインスタンスを 2 つインストールする場合、その種類の製品を 2 つ注文する必要があります。

サードパーティコンポーネント

「サードパーティコンポーネント」とは、ソフトウェアまたはホステッドサービスに含まれる特定のソフトウェアプログラムまたはその一部に、サードパーティ契約にもとじて配布されるソフトウェア (オープンソースソフトウェアを含む) を意味します (以下、

「サードパーティコンポーネント」)。この契約には、ソフトウェアの特定部分についての使用権に関する条項 (以下、「サードパーティ条項」) が含まれています。必要に応じて、配布された Linux OS ソースコード (Linux OS ソースコードを配布した製品関連) に関する情報について、またサードパーティコンポーネントの著作権所有者や適用されるサードパーティ条項の確認情報は、本製品、本書または Avaya の Web サイト (<https://support.avaya.com/Copyright>)、もしくは Avaya によって指定された後継サイトをご覧ください。サードパーティ条項として提供されるオープンソースソフトウェアのライセンス条項は、本ソフトウェアライセンス条項で付与されるライセンス権と整合していますが、オープンソースソフトウェアの変更や配布など、お客様に有利となる他の権利を含む場合があります。サードパーティ条項は、該当するサードパーティコンポーネントに関する限り、本ソフトウェアライセンス条項より優先的に適用されます。ただし、本ソフトウェアライセンス条項が該当するサードパーティ条項よりお客様に厳格な制約を課す場合に限りされます。

次の規定は、H.264 (AVC) コーデックが製品と共に配布される場合のみ適用されます。本製品は、AVC 特許ポートフォリオライセンスにもとづき、消費者の個人的利用またはその他報酬を受領が生じない用途のために、(i) AVC 標準に準拠してビデオをエンコードすること (以下、「AVC ビデオ」)、および/または (ii) 消費者が個人的行為としてエンコードした AVC ビデオまたは AVC ビデオ提供のライセンスを受けたビデオプロバイダから入手した AVC ビデオをデコードすることを目的として、ライセンス許諾されるものです。いかなるライセンスも供与または黙認されません。詳細については、MPEG LA, L.L.C. : [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com) を参照してください。

サービスプロバイダ

次の規定は、AVAYA チャネルパートナーによる AVAYA 製品またはサービスのホスティングに適用されます。製品またはホストサービスでは、サードパーティコンポーネントを使用する場合がありますが、こうしたコンポーネントにはサードパーティの契約条項が適用され、サービスプロバイダはサードパーティのサプライヤから直接、ライセンスを別途取得する必要があります。AVAYA チャネルパートナーによる AVAYA 製品のホスティングは、AVAYA によって書面で承認される必要があります。ホスト製品にサードパーティのソフトウェア (MICROSOFT のソフトウェアやコーデックを含みますが限定されません) が含まれているか組み込まれている場合、AVAYA チャネルパートナーは、自己の費用負担により、必要なライセンス契約を該当するサードパーティサプライヤから別途取得する必要があります。

コーデックについて、Avaya のチャネルパートナーが H.264 または H.265 コーデックを使用する製品をホスティングしている場合、当該パートナーは、自己がすべての関連手数料およびロイヤリティに責任を負うことを認識し、同意します。H.264 (AVC) コーデックは、AVC 特許ポートフォリオライセンスにもとづき、消費者の個人的利用またはその他報酬を受領が生じない用途のために、(I) AVC 標準に準拠してビデオをエンコードすること (以下、「AVC ビデオ」)、および/または (II) 消費者が個人的行為としてエンコードした AVC ビデオまたは AVC ビデオ提供のライセンスを受けたビデオプロバイダから入手した AVC ビデオをデコードすることを目的として、ライセンス許諾されるものです。いかなるライセンスも供与または黙認されません。H.264 (AVC) codec および H.265 (HEVC) codec の詳細については、MPEG LA, L.L.C. から入手することができます。 [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com) を参照してください。

法令遵守

お客様は、Avaya 製品が使用される国または法域で適用される法律および規制 (通話記録、データプライバシー、知的財産、営業秘密、不正、演奏権に関する法律および規制を含みますが、これらに限定されません) を遵守する自己の責任を認識し、これに同意します。

不正利用を防止するために

「不正使用」とは、不正なユーザー (例えば、従業員、代理人、下請け業者、または代理業者以外の何者か) がお客様のテレコミュニケーションシステムを許可を受けずに使用することです。お客様のシステムに関連した不正利用のリスクがあるということ、さらに不正利用が行われた場合、お客様の通信サービスに対して相当額の追加請求が生じる結果になりますのでご注意ください。

Avaya Toll Fraud Intervention (Avaya 通信不正利用防止ライン)

米国およびカナダに在住するお客様は、不正利用の被害にあっている疑いを抱き、技術的な支援またはサポートを必要とする場合、Technical Service Center Toll Fraud Intervention Hotline (Tel: +1-800-643-2353) へお電話でご連絡ください。その他のサポートの電話番号については、Avaya サポート Web サイト (<https://>

support.avaya.com) または Avaya が指定する後継サイトをご覧ください。

セキュリティ脆弱性

Avaya のセキュリティサポートポリシーに関する情報は、<https://support.avaya.com/security> の「Security Policies and Support」セクションに記載されています。

Avaya 製品の疑わしいセキュリティ脆弱性は、Avaya 製品セキュリティサポートフロー (<https://support.avaya.com/css/P8/documents/100161515>) に従って処理されます。

ドキュメントのダウンロード

ドキュメントの最新版については、Avaya サポート Web サイト (<https://support.avaya.com>) または Avaya が指定する後継サイトをご覧ください。

Avaya サポートの連絡先

製品またはホステッドサービスの案内や記事を確認したり、Avaya 製品またはホステッドサービスに関する問題を報告したりするには、Avaya サポート Web サイト (<https://support.avaya.com>) を参照してください。サポートの電話番号およびお問い合わせ先については、Avaya サポート Web サイト (<https://support.avaya.com>) または Avaya が指定する後継サイトにアクセスし、ページの下までスクロールして、[Contact Avaya Support] を選択してください。

商標

本サイトおよび Avaya 提供の文書、ホステッドサービス、製品に表示されている商標、ロゴ、サービスマーク（以下、「マーク」）は、Avaya およびその関連会社、ライセンサー、サプライヤ、もしくはその他サードパーティの登録/未登録商標です。ユーザーは、Avaya またはマークを所有している可能性があるサードパーティの書面による事前の許可なく、これらのマークを使用することはできません。本サイト、ドキュメント、ホストサービス、および製品には、Avaya または該当するサードパーティの明確な同意なく、マークのライセンスまたは権利を黙示、禁反言などにより付与する内容は一切含まれないものとします。

Avaya は、Avaya Inc. の登録商標です。

Avaya 以外のすべての商標は、それぞれの所有者に所有権があります。Linux[®] は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

第 1 章: 概要	7
使用しているボイスメールのタイプ.....	7
メールボックス制限と自動メッセージ削除.....	8
通話のメールボックスへの転送.....	8
メールボックスユーザーオプション.....	8
ボイスメールのヘルプ.....	9
第 2 章: ログイン	10
信頼できるロケーション.....	10
内線番号からログインする.....	10
別のロケーションからのログイン.....	11
ボイスメールへのログイン.....	11
メールボックスのパスコードを変更する.....	12
名前の録音.....	13
第 3 章: メッセージの再生	14
自分のメッセージを再生する.....	14
メッセージの保存.....	15
古いメッセージと保存済みメッセージの再生.....	16
メッセージの削除.....	16
第 4 章: メッセージの転送	18
メッセージを電子メールに転送する.....	18
メッセージを別のメールボックスに転送する.....	19
ヘッダーを追加してからメッセージを転送する.....	19
保存済みメッセージにメッセージを転送する.....	20
新規メッセージを電子メールに転送する.....	20
第 5 章: 発信者オプション	21
メールボックスのあいさつのスキップ.....	21
ブレイクアウトオプション.....	21
第 6 章: ボイスメール用電子メール	22
電子メールアラートの送信.....	22
新規メッセージを電子メールに転送する.....	23
ボイスメール用電子メールをオフに切り替える.....	23
第 7 章: メールボックスのあいさつの変更	24
メールボックスのあいさつの再生.....	24
メールボックスのあいさつを変更する.....	24
メールボックスのあいさつを連続再生するように設定する.....	25
ハントグループのあいさつを変更する.....	25
第 8 章: メールボックス管理	27
メールボックスのパスコードを変更する.....	27
ボイスメールのオン/オフを切り替える.....	28
リングバックのオン/オフを切り替える.....	28
第 9 章: ボイスメール	29

目次

ボイスメールへのログイン.....	29
ボイスメールの制御.....	29

第 1 章: 概要

このドキュメントでは、IP Office メールボックスモードで実行される Voicemail Pro サーバーを使用した IP Office システムのメールボックス操作について説明します。使用しているシステムや、そのシステムで動作しているモードがわからない場合は、「[使用しているボイスメールのタイプ](#) (7 ページ)」を参照してください。

関連リンク

- [使用しているボイスメールのタイプ](#) (7 ページ)
- [メールボックス制限と自動メッセージ削除](#) (8 ページ)
- [通話のメールボックスへの転送](#) (8 ページ)
- [メールボックスユーザーオプション](#) (8 ページ)
- [ボイスメールのヘルプ](#) (9 ページ)

使用しているボイスメールのタイプ

ボイスメールの操作はカスタマイズ可能です。そのため、次の適切なメールボックスガイドを使用することが重要です。

使用するガイドの確認方法

システム管理者は、Avaya IP Office システムでどのタイプのボイスメールが使用されているかを伝えることができます。ただし、次のプロセスを使用するとユーザー自身で判断できる場合があります。

- 電話で、*17をダイヤルしてボイスメールにアクセスします。
- 最初のあいさつの後、ボイスメールで「内線番号とシャープを入力してください」と尋ねられる場合は、このボイスメールシステムは Intuity モードで実行されています。それ以外の場合は、手順 3 に進みます。
 - [7] を押します。システムがスキャンオプションに応じる場合は、お使いのボイスメールサーバーは Voicemail Pro になります。
 - 応じない場合、ボイスメールサーバーは Embedded Voicemail です。
- それ以外の場合は、ボイスメールシステムは IP Office モードで実行されています。*05 を押します。
 - システムが一連のオプションに応じる場合、ボイスメールサーバーは Embedded Voicemail になります。
 - 応じない場合、ボイスメールサーバーは Voicemail Pro です。

上記に応じて、次のメールボックスユーザーガイドを利用できます。

- [Using IP Office Embedded Voicemail IP Office Mode](#)

- [Using IP Office Embedded Voicemail Intuity Mode](#)
- [Using a Voicemail Pro Intuity Mode Mailbox](#)
- [Using a Voicemail Pro IP Office Mode Mailbox](#)

関連リンク

[概要](#) (7 ページ)

メールボックス制限と自動メッセージ削除

メールボックスでは、メッセージと録音は 60 分までに制限されています。この制限に達すると、その後の発信者はメッセージを残すことができないことが通知され、システム管理者はアラームを受信することがあります。


- メッセージを保存済みメッセージとして保存しない限り、メッセージが一部でも再生されると 36 時間後に自動的に削除されます。
- システム管理者はメッセージが自動的に削除される前に遅延を設定します。デフォルトでは、古いメッセージにのみ適用されますが、保存済みメッセージを含むその他のタイプに適用することもできます。

関連リンク


[概要](#) (7 ページ)

通話のメールボックスへの転送

このタスクについて

お使いの電話機の  ボタンを通話の転送先として使用できます。これにより、発信者は別のユーザーやグループのメールボックスに直接転送されメッセージを残すことができます。

手順

1. [転送] を押します。
2.  ボタンを押します。
3. 転送先のメールボックスの内線番号を入力します。
4. これで転送は完了です。

関連リンク

[概要](#) (7 ページ)

メールボックスユーザーオプション

以下は、メールボックスへのログイン時に使用できるオプションの概要です。

自分の内線番号に発信してボイスメールに転送された場合、最初のあいさつの再生中に [8] を押すと、メッセージの取得に切り替えることができます。

トップメニュー	サブメニュー
<ul style="list-style-type: none"> • 古いメッセージの再生 = 1 • 保存済みメッセージの再生 = 2 • あいさつの編集 = 3 (サブメニュー参照) • 現在のメッセージの削除 = 4 • 現在のメッセージの保存 = 5 • 転送オプション = 6 (サブメニュー参照) • 前のメッセージの連続再生 = 7 • ヘルプ = 8 • 現在のメッセージのスキップ = 9 • 早送り = # • 巻き戻し = * • 送信者にコールバック = ** • すべてを電子メールに転送 = *01 • 電子メール通知の送信 = *02 • 電子メールの使用をオフにする = *03 • メールボックスのアクセスコードの変更 = *04 • 名前の録音 = *05 	<p>3. あいさつの編集 (ユーザー)</p> <ul style="list-style-type: none"> • あいさつの再生 = 1 • 新規あいさつの録音 = 2 • 新規あいさつの保存 = 3 • 新規あいさつをループで保存 = 4 • メールボックスに戻る = 8 <p>3. あいさつの編集 (ハントグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通常のあいさつの確認 = 1 • 営業時間外のあいさつの確認 = 2 • キュー待機中のメッセージの確認 = 3 • キュー待機継続中のメッセージの確認 = 4 <p>転送</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電子メールへの転送 = 1 • 内線番号への転送 = 2 • ヘッダー付きで内線番号に転送 = 3 <p>(各内線番号の後に #、最後に # をつけて入力を完了)</p>

メモ

- 電子メールオプションを使用する前に、システム管理者は、システム設定の電子メールアドレスを入力する必要があります。入力していない場合、ユーザーが電子メールオプションの使用を試みると常に、「電子メールはこのメールボックスでは無効です」というメッセージが流れます。システム管理者はユーザーに、ボイスメールシステムで電子メールが使用できるように設定しているかどうかを知らせることができます。

関連リンク

[概要 \(7 ページ\)](#)

ボイスメールのヘルプ


[8] を押すといつでもヘルプメニューを再生できます。

関連リンク

[概要 \(7 ページ\)](#)

第 2 章: ログイン

このセクションでは、メールボックスにログインしてメッセージを取得する方法について説明します。

- 多数の Avaya の電話機には、ボイスメールのメールボックスにアクセスできる  キーやメニューがあります。「[ボイスメールへのログイン](#) (11 ページ)」を参照してください。
- one-X Portal for IP Office アプリケーションを使用することもできます。これはボイスメールメッセージがある場合に表示できます。
- 別の電話機から自分のメールボックスにログインする場合には、「[別のロケーションからのログイン](#) (11 ページ)」を参照してください。

関連リンク

- [信頼できるロケーション](#) (10 ページ)
- [内線番号からログインする](#) (10 ページ)
- [別のロケーションからのログイン](#) (11 ページ)
- [ボイスメールへのログイン](#) (11 ページ)
- [メールボックスのパスワードを変更する](#) (12 ページ)
- [名前の録音](#) (13 ページ)

信頼できるロケーション

ボイスメールのメールボックスは、アクセスコードを使用して保護できます。デフォルトでは、自分の内線番号が、メールボックスのログイン時にアクセスコードの入力が不要な信頼できるロケーションとして設定されます。システム管理者は必要に応じてこれを変更できます。

自分の内線番号以外の場所から、定期的にメールボックスにログインする場合は、システム管理者にその場所を信頼できるロケーションとして設定するよう依頼することもできます。

関連リンク

- [ログイン](#) (10 ページ)

内線番号からログインする

このタスクについて

デフォルトでは、お使いの内線番号は信頼できるロケーションとなっているため、その内線番号からアクセスコードを入力しないでボイスメールのメールボックスにログインできます。

手順

1. [*17] をダイヤルします。初めてメールボックスを使用する場合は、名前の録音を求められることがあります。その場合は、音声の指示に従ってください。
2. メールボックスにログインすると、新規メッセージがある場合は、その数を知らせるアナウンスが流れます。次に新規メッセージが再生されます。
3. [8] を押すと、使用できるオプションを確認できます。
4. ボイスメールを終了するには、電話を切ります。

関連リンク

[ログイン](#) (10 ページ)

別のロケーションからのログイン

このタスクについて

お使いの電話システム以外の電話からメールボックスにログインすることができます。システム管理者はそのような特定の番号を設定できる場合があります。ただし、それ以外の場合は、以下の方法でリモートでのログインを使用できます。

手順

1. 次のいずれかを実行します。
 - 別の内線番号を使用している場合は、自分の内線番号をダイヤルします。
 - 外線番号のロケーションにいる場合は、外線 DID 番号に発信するか、受付に発信して自分の内線番号に転送してもらうように依頼します。
2. ボイスメールのあいさつが聞こえたら [8] を押します。アクセスコードを求められます。
3. アクセスコードを入力します。これでメッセージを確認できます。
 - 自分の内線番号以外のロケーションから定期的にメールボックスにログインする場合は、システム管理者にそのロケーションを信頼できるロケーションとして設定するよう依頼できます。信頼できるロケーションからメールボックスにログインしたときは、アクセスコードを求められることはありません。


関連リンク

[ログイン](#) (10 ページ)

ボイスメールへのログイン


このタスクについて

ボイスメールは、メールボックスのコンテンツとメールボックスの設定にアクセスする表示メニューです。「[ボイスメールの制御](#) (29 ページ)」を参照してください。

デフォルトでは、Avaya の電話機の  ボタンから電話機のユーザーのメールボックスのボイスメールメニューにアクセスします。

- システム管理者が、お使いの電話機のボイスメールメニューを、その他のユーザーやグループのメールボックスのメッセージにアクセスできるように設定することもできます。

手順

1. 次のいずれかを実行します。
 - a. Avaya の電話機の  ボタンを押します。
 - b. [機能] を押します。[ボイスメール] までスクロールして [選択] を押します。
 - c. お使いの電話機でプログラムされたオプションの [ボイスメール] ボタンを押します。
2. ボイスメールオプションが電話機の画面に表示されます。「[ボイスメールの制御](#) (29 ページ)」を参照してください。

関連リンク

[ログイン](#) (10 ページ)

[ボイスメール](#) (29 ページ)

メールボックスのパスコードを変更する

このタスクについて

アクセスコードを設定すると、メールボックスを保護できます。これは特に、公共の場所からログインしてメッセージを取得する場合に便利です。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。
2. メールボックスのアクセスコードを変更するには [*04] を押します。
3. 発信音の後に現在のアクセスコードを入力します。アクセスコードがない場合は、[#] を押します。
4. 発信音の後に新しいアクセスコードを入力して [#] を押します。
5. 新しいアクセスコードを繰り返し入力するよう求められたら、もう一度新しいアクセスコードを入力して [#] を押します。
 - 6 桁以上のパスワードを選択する必要があります。最大 15 桁のパスワードを設定できます。
 - パスワードには、お使いの内線番号と同じ数字、同じ数字の繰り返しや連続する数字は使用できません。
 - 1397 などのその他の一般的なキーパッドパターンは使用できません。
 - システム管理者は一部の最小要件を変更して、相違がある場合に通知できます。
6. 「アクセスコードが変更されました」というメッセージが聞こえたら、電話を切ります。

関連リンク[ログイン](#) (10 ページ)[メールボックス管理](#) (27 ページ)

名前の録音

このタスクについて

メールボックスにログインすると、確認として自分の名前が再生されます。これは、システムの他のアナウンスや機能でも使用されます。名前の録音はいつでも変更できます。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。
2. 名前を録音するためのオプションを選択するには [*05] を押します。
3. 現在の録音を聞くには、[1] を押します。
4. 名前を録音するには、[2] を押します。プロンプトが表示されたら、自分の名前を言います。最大録音時間は 5 秒です。
5. 名前の録音を完了したら、[2] を押します。
6. 新しい録音を再生するには、[1] を押します。録音を聞き直し、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 新しい録音を保存するには、[3] を押します。
 - 名前を再度録音するには、[2] を押します。

関連リンク[ログイン](#) (10 ページ)

第 3 章: メッセージの再生

メールボックスにログインすると、ユーザーのメールボックスにある新規メッセージの数を知らせるアナウンスが流れます。次に最初の新規メッセージが再生されます。詳細については、「[自分のメッセージを再生する](#) (14 ページ)新規メッセージの再生」を参照してください。

メールボックスには、次のメッセージタイプを含めることができます。

- [新規] : メールボックスの所有者であるユーザーがまだ再生していないメッセージです。
- [古い] : メッセージの再生を開始するとすぐに、メッセージのステータスが [古い] に変わります。
 - • 新規メッセージが一度再生されると、「古い」メッセージになり、保存済みにしない限り 36 時間後に自動的に削除されます。
 - システム管理者はメッセージが自動的に削除される前に遅延を設定します。デフォルトでは、古いメッセージにのみ適用されますが、保存済みメッセージを含むその他のタイプに適用することもできます。
- [保存済み] : メッセージの再生中に、メッセージの保存を要求できます。

関連リンク

[自分のメッセージを再生する](#) (14 ページ)

[メッセージの保存](#) (15 ページ)

[古いメッセージと保存済みメッセージの再生](#) (16 ページ)

[メッセージの削除](#) (16 ページ)

自分のメッセージを再生する

このタスクについて

メールボックスにログインすると、新規ボイスメールメッセージがある場合は、その数を知らせるアナウンスが流れます。次にこれらの最初のメッセージが再生されます。

- 新規メッセージが一度再生されると、「古い」メッセージになり、保存済みにしない限り 36 時間後に自動的に削除されます。
- システム管理者はメッセージが自動的に削除される前に遅延を設定します。デフォルトでは、古いメッセージにのみ適用されますが、保存済みメッセージを含むその他のタイプに適用することもできます。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。

2. メールボックスでは新規メッセージ数がアナウンスされ、最初の新規メッセージの再生を開始します。
 - 古いメッセージに切り替えるには [1] を押します。
 - 保存済みメッセージに切り替えるには [2] を押します。
3. メッセージの再生時に、次のように制御できます。
 - メッセージを削除するには : [4] を押します。「[メッセージの削除](#) (16 ページ)」を参照してください。
 - メッセージを保存するには : [5] を押します。「[メッセージの保存](#) (15 ページ)」を参照してください。
 - メッセージを転送するには : [6] を押します。「[メッセージの転送](#) (18 ページ)」を参照してください。
 - 最終メッセージを連続再生するには : [7] を押します。
 - メッセージをスキップするには : [9] を押します。
 - 送信者にコールバックするには (内線の場合) : [**] を押します。
 - 早送りするには : [#] を押します。
 - 巻き戻すには : [*] を押します。
 - 一時停止するには : [0] を押します。
 - 再開するには : [*] を押します。

関連リンク

[メッセージの再生](#) (14 ページ)

メッセージの保存

このタスクについて

保存済みメッセージにすることで、メッセージが自動的に削除されないようにできます。

- メールボックスをいっぱいにならないようにする必要があります (「[メールボックス制限と自動メッセージ削除](#) (8 ページ)」を参照)。メールボックスがいっぱいになると、新規メッセージが録音されなくなります。
- システム管理者はメッセージが自動的に削除される前に遅延を設定します。デフォルトでは、古いメッセージにのみ適用されますが、保存済みメッセージを含むその他のタイプに適用することもできます。

手順

メッセージの再生中かその再生直後に、次を行います。

- メッセージを保存済みにするには、[5] を押します。

関連リンク

[メッセージの再生](#) (14 ページ)

古いメッセージと保存済みメッセージの再生

このタスクについて

デフォルトでは、メールボックスにアクセスすると、新規メッセージの再生が開始されます。古いメッセージや保存済みメッセージを再生するように切り替えることができます。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。
2. メールボックスでは新規メッセージ数がアナウンスされ、最初の新規メッセージの再生を開始します。
 - 古いメッセージに切り替えるには [1] を押します。
 - 保存済みメッセージに切り替えるには [2] を押します。
3. メッセージの再生時に、次のように制御できます。
 - メッセージを削除するには : [4] を押します。「[メッセージの削除](#) (16 ページ)」を参照してください。
 - メッセージを保存するには : [5] を押します。「[メッセージの保存](#) (15 ページ)」を参照してください。
 - メッセージを転送するには : [6] を押します。「[メッセージの転送](#) (18 ページ)」を参照してください。
 - 最終メッセージを連続再生するには : [7] を押します。
 - メッセージをスキップするには : [9] を押します。
 - 送信者にコールバックするには (内線の場合) : [**] を押します。
 - 早送りするには : [#] を押します。
 - 巻き戻すには : [*] を押します。
 - 一時停止するには : [0] を押します。
 - 再開するには : [*] を押します。

関連リンク

[メッセージの再生](#) (14 ページ)

メッセージの削除

このタスクについて

メッセージを保存しない場合は、メッセージの再生中に削除できます。

手順

メッセージの再生中かその再生直後に、次を行います。

- メッセージを削除するには [4] を押します。

関連リンク

[メッセージの再生](#) (14 ページ)

第 4 章: メッセージの転送

メッセージは別のロケーションに転送できます。

関連リンク

- [メッセージを電子メールに転送する](#) (18 ページ)
- [メッセージを別のメールボックスに転送する](#) (19 ページ)
- [ヘッダーを追加してからメッセージを転送する](#) (19 ページ)
- [保存済みメッセージにメッセージを転送する](#) (20 ページ)
- [新規メッセージを電子メールに転送する](#) (20 ページ)

メッセージを電子メールに転送する

このタスクについて

ボイスメッセージを電子メールのメールボックスに転送できます。このメッセージはファイルとして電子メールに添付して送信できます。

- 電子メールオプションを使用する前に、システム管理者は、システム設定の電子メールアドレスを入力する必要があります。入力していない場合、ユーザーが電子メールオプションの使用を試みると常に、「電子メールはこのメールボックスでは無効です」というメッセージが流れます。システム管理者はユーザーに、ボイスメールシステムで電子メールが使用できるように設定しているかどうかを知らせることができます。

手順

- メッセージの再生中または再生直後に、[6] を押します。
- [1] を押します。メッセージは電子メールアドレスに転送されます。
- 前のメニューに戻る、またはメッセージの転送をキャンセルするには、[#] を押します。

関連リンク

- [メッセージの転送](#) (18 ページ)

メッセージを別のメールボックスに転送する

このタスクについて

異なる内線番号や複数の内線番号にメッセージを転送できます。

- メッセージ向けの自分のヘッダーを録音してからメッセージを転送することもできます。
「[ヘッダーを追加してからメッセージを転送する](#) (19 ページ)」を参照してください。

手順

1. メッセージの再生中または再生直後に、[6] を押します。
2. [2] を押します。
3. 内線番号を入力するごとに [#] を押します。例えば、
 - 内線番号 201 にのみメッセージを転送するには、**201#** をダイヤル
 - 内線番号 201、202、203 にメッセージを転送するには、**201#202#203#** をダイヤル
4. 終了するには、[#] をもう一度押します。

関連リンク

[メッセージの転送](#) (18 ページ)

ヘッダーを追加してからメッセージを転送する

このタスクについて

メッセージを転送する前に、転送するメッセージのヘッダーとして、自分のメッセージを録音できます。例えば、メッセージを転送する理由を受信者に説明するためのヘッダーメッセージを追加できます。

手順

1. メッセージの再生中または再生直後に、[6] を押します。
2. [3] を押します。
3. メッセージを録音してから、いずれかのキーを押して録音を完了するように求められます。
4. 内線番号を入力するごとに [#] を押します。例えば、
 - 内線番号 201 にのみメッセージを転送するには、**201#** をダイヤル
 - 内線番号 201、202、203 にメッセージを転送するには、**201#202#203#** をダイヤル
5. 終了するには、[#] をもう一度押します。

関連リンク

[メッセージの転送](#) (18 ページ)

保存済みメッセージにメッセージを転送する

このタスクについて

保存済みメッセージにすることで、メッセージが自動的に削除されないようにできます。

- メールボックスをいっぱいにならないようにする必要があります（「[メールボックス制限と自動メッセージ削除](#) (8 ページ)」を参照）。メールボックスがいっぱいになると、新規メッセージが録音されなくなります。
- システム管理者はメッセージが自動的に削除される前に遅延を設定します。デフォルトでは、古いメッセージにのみ適用されますが、保存済みメッセージを含むその他のタイプに適用することもできます。

手順

1. メッセージの再生中または再生直後に、[6] を押します。
2. [4] を押します。
3. 終了するには、[#] をもう一度押します。

関連リンク

[メッセージの転送](#) (18 ページ)

新規メッセージを電子メールに転送する

このタスクについて

新規メッセージを電子メールアドレスに自動的に転送することができます。

- 転送すると、元のボイスメッセージはボイスメールのメールボックスから自動的に削除されます。
- このオプションを選択するとその他のアラートがオーバーライドされます。「[電子メールアラートの送信](#) (22 ページ)」を参照してください。
- 電子メールオプションを使用する前に、システム管理者は、システム設定の電子メールアドレスを入力する必要があります。入力していない場合、ユーザーが電子メールオプションの使用を試みると常に、「**電子メールはこのメールボックスでは無効です**」というメッセージが流れます。システム管理者はユーザーに、ボイスメールシステムで電子メールが使用できるように設定しているかどうかを知らせることができます。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。
2. [*01] を押します。今後ボイスメールのメールボックスで受信した新規メッセージは、電子メールアドレスに転送されます。

関連リンク

[メッセージの転送](#) (18 ページ)

[ボイスメール用電子メール](#) (22 ページ)

第 5 章: 発信者オプション

ボイスメールサービスには、メッセージを残す以外にもその他の発信者用オプションがあります。

関連リンク

[メールボックスのあいさつのスキップ](#) (21 ページ)

[ブレイクアウトオプション](#) (21 ページ)

メールボックスのあいさつのスキップ

このタスクについて

メッセージを残すように指示されたときに、自分とその他の発信者はメールボックス所有者のあいさつをスキップできます。

手順

1. メールボックスのあいさつが聞こえたらすぐに、[2] を押します。
2. 発信音が聞こえたら、メッセージを録音できます。

関連リンク

[発信者オプション](#) (21 ページ)

ブレイクアウトオプション

システム管理者は多数のブレイクアウトオプションを設定できます。あいさつの再生中に発信者が [0]、[2]、または [3] を押すと、別の内線番号に転送できます。例えば、[0] を押すと会社の受付に転送されます。

システム管理者がこれらのオプションを設定している場合は、メールボックス用に録音したあいさつにこのようなオプションを設定すると便利です。

関連リンク

[発信者オプション](#) (21 ページ)

第 6 章: ボイスメール用電子メール

電子メールアドレスに送信する新規メッセージの通知を設定できます。必要に応じて、メッセージがあることを知らせる簡単なアラートか、ボイスメールメッセージのコピーを通知できます。メッセージの再生時にメッセージを電子メールアドレスに転送するように選択することもできます。

- 電子メールオプションを使用する前に、システム管理者は、システム設定の電子メールアドレスを入力する必要があります。入力していない場合、ユーザーが電子メールオプションの使用を試みると常に、「電子メールはこのメールボックスでは無効です」というメッセージが流れます。システム管理者はユーザーに、ボイスメールシステムで電子メールが使用できるように設定しているかどうかを知らせることができます。

関連リンク

[電子メールアラートの送信](#) (22 ページ)

[新規メッセージを電子メールに転送する](#) (20 ページ)

[ボイスメール用電子メールをオフに切り替える](#) (23 ページ)

電子メールアラートの送信

このタスクについて

発信者がユーザーにメッセージを残したことを知らせる電子メールアラートを受信するように選択できます。

- このオプションは新規メッセージの自動電子メール転送にオーバーライドされます。「[新規メッセージを電子メールに転送する](#) (20 ページ)」を参照してください。
- 電子メールオプションを使用する前に、システム管理者は、システム設定の電子メールアドレスを入力する必要があります。入力していない場合、ユーザーが電子メールオプションの使用を試みると常に、「電子メールはこのメールボックスでは無効です」というメッセージが流れます。システム管理者はユーザーに、ボイスメールシステムで電子メールが使用できるように設定しているかどうかを知らせることができます。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。
2. [*02] を押します。電子メールアラートはその後のボイスメールのメッセージでボイスメールのメールボックスに送信されます。

関連リンク

[ボイスメール用電子メール](#) (22 ページ)

新規メッセージを電子メールに転送する

このタスクについて

新規メッセージを電子メールアドレスに自動的に転送することができます。

- 転送すると、元のボイスメッセージはボイスメールのメールボックスから自動的に削除されます。
- このオプションを選択するとその他のアラートがオーバーライドされます。「[電子メールアラートの送信](#) (22 ページ)」を参照してください。
- 電子メールオプションを使用する前に、システム管理者は、システム設定の電子メールアドレスを入力する必要があります。入力していない場合、ユーザーが電子メールオプションの使用を試みると常に、「[電子メールはこのメールボックスでは無効です](#)」というメッセージが流れます。システム管理者はユーザーに、ボイスメールシステムで電子メールが使用できるように設定しているかどうかを知らせることができます。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。
2. [*01] を押します。今後ボイスメールのメールボックスで受信した新規メッセージは、電子メールアドレスに転送されます。

関連リンク

- [メッセージの転送](#) (18 ページ)
- [ボイスメール用電子メール](#) (22 ページ)

ボイスメール用電子メールをオフに切り替える

このタスクについて

電子メール通知オプションを選択している場合（「[電子メールアラートの送信](#) (22 ページ)」と「[新規メッセージを電子メールに転送する](#) (20 ページ)」を参照）は、それらのオプションをオフに切り替えることができます。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。
2. [*03] を押します。

関連リンク

- [ボイスメール用電子メール](#) (22 ページ)

第 7 章: メールボックスのあいさつの変更

デフォルトでは、発信者がユーザーのメールボックスに転送されると、一般的なシステムのあいさつが再生されます。必要に応じて、メールボックスの個人用あいさつのメッセージを録音できます。

関連リンク

[メールボックスのあいさつの再生](#) (24 ページ)

[メールボックスのあいさつを変更する](#) (24 ページ)

[メールボックスのあいさつを連続再生するように設定する](#) (25 ページ)

[ハントグループのあいさつを変更する](#) (25 ページ)

メールボックスのあいさつの再生

このタスクについて

メールボックスの現在のあいさつを再生できます。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。
2. あいさつメッセージに進むには [3] を押します。
3. [1] を押します。メールボックスに使用されている現在のあいさつが再生されます。
4. 前のメニューにもどるには [8] を押します。

関連リンク

[メールボックスのあいさつの変更](#) (24 ページ)

メールボックスのあいさつを変更する

このタスクについて

必要に応じて、メールボックスのあいさつを変更できます。メールボックスに転送された発信者が、カバー番号への転送オプションを使用できるように選択する場合は、使用可能な転送オプションについて説明するあいさつメッセージを録音する必要があります。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。

2. あいさつメッセージに進むには [3] を押します。
3. [2] を押して新規あいさつを録音します。
 - a. 発信音の後に、新規あいさつの録音を開始します。あいさつは 3 秒以上の長さが必要です。
 - b. [2] を押して録音を完了します。
4. 新規あいさつを再生するには、[1] を押します。
5. あいさつを再録音するには、もう一度 [2] を押して、上記の手順を繰り返します。
6. 新規あいさつを保存するには、[3] を押します。
7. 前のメニューにもどるには [8] を押します。

関連リンク

[メールボックスのあいさつの変更](#) (24 ページ)

メールボックスのあいさつを連続再生するように設定する

このタスクについて

個人用あいさつメッセージを連続再生するように設定することができます。これを設定すると、発信者はメッセージを残したり、ブレイクアウトオプションにアクセスしたりできません。

- この設定をキャンセルするには、メールボックスのあいさつを新規あいさつに差し替える必要があります。「[メールボックスのあいさつを変更する](#) (24 ページ)」を参照してください。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。
2. あいさつメッセージに進むには [3] を押します。
3. [4] を押します。変更が保存されたことを知らせる確認メッセージが流れます。
4. 前のメニューにもどるには [8] を押します。

関連リンク

[メールボックスのあいさつの変更](#) (24 ページ)

ハントグループのあいさつを変更する

このタスクについて

システム管理者は、ユーザーがハントグループのメールボックスにログインする方法を設定できます。標準のメッセージ制御に加え、ハントグループのあいさつメッセージを変更できます。

ハントグループのメールボックスでは、次のように複数の異なるあいさつを録音できます。

- **メールボックスのあいさつ**：これは発信者にメッセージを残すように求める、標準のメールボックスのあいさつです。

- **営業時間外のあいさつ**：このあいさつは、ハントグループが夜間サービスまたはサービス休止中のモードのいずれかに設定されている場合に使用します。
- **キュー待機中のあいさつ**：このあいさつは、グループメンバーからの応答を待っている発信者向けに再生されます。
- **キュー待機継続中のあいさつ**：このあいさつは、グループメンバーからの応答を引き続き待っている発信者向けに再生されます。

手順

1. システム管理者が設定したオプションを使用して、グループのメールボックスにログインします。
2. あいさつメッセージに進むには [3] を押します。
3. 次のように録音するあいさつを選択します。
 - 標準のメールボックスのあいさつの場合は、[1] を押します。
 - 営業時間外のあいさつの場合は、[2] を押します。
 - キュー待機中のあいさつの場合は、[3] を押します。
 - キュー待機継続中のあいさつの場合は、[4] を押します。
4. [1] を押して現在のあいさつを再生します。
5. [2] を押して新規あいさつを録音します。
 - a. 発信音の後に、新規あいさつの録音を開始します。あいさつは 3 秒以上の長さが必要です。
 - b. [2] を押して録音を完了します。
6. 新規あいさつを再生するには、[1] を押します。
7. あいさつを再録音するには、もう一度 [2] を押し、上記の録音手順を繰り返します。
8. 新規あいさつを保存するには、[3] を押します。
9. 前のメニューにもどるには [8] を押します。

関連リンク

[メールボックスのあいさつの変更](#) (24 ページ)

第 8 章: メールボックス管理

このセクションでは基本的なメールボックスオプションについて説明します。

関連リンク

[メールボックスのパスコードを変更する](#) (12 ページ)

[ボイスメールのオン/オフを切り替える](#) (28 ページ)

[リングバックのオン/オフを切り替える](#) (28 ページ)

メールボックスのパスコードを変更する

このタスクについて

アクセスコードを設定すると、メールボックスを保護できます。これは特に、公共の場所からログインしてメッセージを取得する場合に便利です。

手順

1. メールボックスにログインします。「[ログイン](#) (10 ページ)」を参照してください。
2. メールボックスのアクセスコードを変更するには [*04] を押します。
3. 発信音の後に現在のアクセスコードを入力します。アクセスコードがない場合は、[#] を押します。
4. 発信音の後に新しいアクセスコードを入力して [#] を押します。
5. 新しいアクセスコードを繰り返し入力するよう求められたら、もう一度新しいアクセスコードを入力して [#] を押します。
 - 6 桁以上のパスワードを選択する必要があります。最大 15 桁のパスワードを設定できます。
 - パスワードには、お使いの内線番号と同じ数字、同じ数字の繰り返しや連続する数字は使用できません。
 - 1397 などのその他の一般的なキーパッドパターンは使用できません。
 - システム管理者は一部の最小要件を変更して、相違がある場合に通知できます。
6. 「アクセスコードが変更されました」というメッセージが聞こえたら、電話を切りま

関連リンク

[ログイン](#) (10 ページ)

[メールボックス管理](#) (27 ページ)

ボイスメールのオン/オフを切り替える

このタスクについて

ボイスメールをオフにすると、通話が応答されない場合、発信者はメールボックスにリダイレクトされません。このオプションによって、他のメールボックスユーザーがメッセージをメールボックスに転送できなくなることはありません。

手順

1. お使いの内線番号で（メールボックスにログインする必要はありません）、次を行います。
 - ・ボイスメールをオフにするには：*19をダイヤル
 - ・ボイスメールをオンにするには：*18をダイヤル
2. 2回の確認ビープ音が聞こえます。電話を切ります。

関連リンク

[メールボックス管理](#) (27 ページ)

リングバックのオン/オフを切り替える

このタスクについて

ボイスメールのリングバックがオンになっており、新規メッセージがある場合は、ボイスメールサービスでは、次に通話終了時にユーザーに発信します。応答すると、メールボックスにログインするように求められます。

手順

1. お使いの内線番号で（メールボックスにログインする必要はありません）、次を行います。
 - ・リングバックをオンに切り替えるには：*48 をダイヤル
 - ・リングバックをオフに切り替えるには：*49 をダイヤル
2. 2回の確認ビープ音が聞こえます。電話を切ります。

関連リンク

[メールボックス管理](#) (27 ページ)

第 9 章: ボイスメール

ボイスメールを使用すると、音声プロンプトに従うのではなく、電話に表示されるメニューを使用してボイスメールのメールボックスと設定にアクセスできます。

関連リンク


[ボイスメールへのログイン](#) (11 ページ)

[ボイスメールの制御](#) (29 ページ)

ボイスメールへのログイン


このタスクについて

ボイスメールは、メールボックスのコンテンツとメールボックスの設定にアクセスする表示メニューです。「[ボイスメールの制御](#) (29 ページ)」を参照してください。

デフォルトでは、Avaya の電話機の  ボタンから電話機のユーザーのメールボックスのボイスメールメニューにアクセスします。

- システム管理者が、お使いの電話機のボイスメールメニューを、その他のユーザーやグループのメールボックスのメッセージにアクセスできるように設定することもできます。

手順

1. 次のいずれかを実行します。
 - a. Avaya の電話機の  ボタンを押します。
 - b. [機能] を押します。[ボイスメール] までスクロールして [選択] を押します。
 - c. お使いの電話機でプログラムされたオプションの [ボイスメール] ボタンを押します。
2. ボイスメールオプションが電話機の画面に表示されます。「[ボイスメールの制御](#) (29 ページ)」を参照してください。

関連リンク

[ログイン](#) (10 ページ)

[ボイスメール](#) (29 ページ)

ボイスメールの制御

画面のオプションの配置は、電話機のタイプや表示サイズによって異なります。

ラベル	説明
[再生]	<p>自分のボイスメールのメールボックスにアクセスすると各タイプのメッセージ数が表示されます。オプションを選択するとそれらのメッセージにアクセスし、以下のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [再生]：メッセージを再生します。 <ul style="list-style-type: none"> - 次のメッセージまたは前のメッセージを選択するには、電話機の上/下方向キーを使用します。 - 現在再生中のメッセージを5秒早送りまたは巻き戻しするには、電話機の左/右方向キーを使用します。 • [一時停止]：メッセージの再生を一時停止します。 • [削除]：メッセージを削除します。 • [通話]：発信者 ID が利用できる場合は、メッセージの送信者に発信します。 • [コピー]：メッセージを別のメールボックスにコピーします。このボタンを押すと、さまざまな追加オプションが表示されます。 • [保存]：メッセージを保存済みにします。
[メッセージ]	ボイスメールメッセージを録音して、別のメールボックスや複数のメールボックスに送信します。
[あいさつ]	メールボックスに転送される発信者に使用するメインのあいさつを変更します。あいさつが録音されていない場合は、デフォルトのシステムメールボックスのあいさつが使用されます。
[電子メール]	<p>このオプションは電子メールアドレスが設定されている場合に表示されます。ボイスメールのメールボックスで受信した新規メッセージに使われる現在のボイスメール用電子メールモードを表示して、変更できます。[変更]を使用すると選択したモードを変更できます。必要なモードが表示されたら[完了]を押します。モードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Eメールモードオフ]：ボイスメール用電子メールは使用されません。 • [Eメールモードコピー]：新規ボイスメールメッセージを電子メールアドレスにコピーし、元のメッセージをメールボックスにそのまま残します。 • [Eメールモード転送]：新規ボイスメールメッセージを電子メールアドレスに転送し、メールボックスから元のメッセージを削除します。 • [Eメールモードアラート]：アラート電子メールメッセージを電子メールアドレスに送信し、元のメッセージをメールボックスにそのまま残します。
[パスワード]	ボイスメールのメールボックスのパスワードを変更します。この操作を行うには、既存のパスワードを入力する必要があります。
[ボイスメール]	ボイスメールカバレッジをオン/オフに切り替えます。オフにすると、不応答の通話はメールボックスにリダイレクトされません。

関連リンク

[ボイスメール](#) (29 ページ)

索引

E

Embedded Voicemail [7](#)

I

Intuity モード [7](#)

IP Office モード [7](#)

V

Voicemail Pro [7](#)

あ

あいさつ [24](#)

 グループ [25](#)

 再生 [24](#)

 スキップ [21](#)

 変更 [24](#)

 連続 [25](#)

アラート [22](#)

う

受付 [21](#)

お

オプション

 ボイスメール [29](#)

オペレーター [21](#)

く

グループ

 あいさつ [25](#)

さ

リスニング

 新しい [14](#)

 古いメッセージの再生 [16](#)

 保存済みメッセージの再生 [16](#)

削除 [14](#)

 自動 [8](#)

 メッセージ [16](#)

サマリー [8](#)

し

自動削除 [8](#)

新規

 あいさつ [24](#)

新規 (続き)

 新規メッセージの電子メールへの転送 [20](#), [23](#)

 電子メールアラート [22](#)

 リングバック [28](#)

新しい [14](#)

信頼できるロケーション [10](#)

す

スキップ

 あいさつ [21](#)

スキップする

 メッセージ [14](#)

ストレージ制限 [8](#)

て

電子メール [22](#)

 オフ [23](#)

 電子メールへの転送 [18](#)

電子メールアラート [22](#)

転送 [8](#)

 電子メールへの新規メッセージ [20](#), [23](#)

 電子メールへの転送 [18](#)

 ヘッダー付き [19](#)

 別のメールボックスに [19](#)

 保存済みに転送 [20](#)

 メッセージ [18](#)

な

名前

 録音 [13](#)

は

パスコード

 信頼できるロケーション [10](#)

 変更 [12](#), [27](#)

発信者

 あいさつのスキップ [21](#)

 オプション [21](#)

 ボイスメールへの転送 [8](#)

ハントグループ

 あいさつ [25](#)

ふ

使用中 [14](#)

 コールミー [16](#)

ブレイクアウト [21](#)

へ

ヘルプ	9
変更	
あいさつ	24
名前	13
パスコード	12, 27

ほ

ボイスメール	29
オン/オフ	28
制御	29
ログイン	11, 29
ボイスメール用電子メール	22
アラート	22
オフ	23
保存	
コールミー	16
保存済みに転送	20
メッセージ	15
保存済み	14

め

メッセージ	
リスニング	14
削除	16
新規メッセージの転送	20, 23
スキップする	14
電子メールへの転送	18
古いメッセージの再生	16
別のメールボックスへの転送	19
保存	15
保存済みに転送	20
保存済みメッセージの再生	16
メールボックス	
あいさつ	24
オプション	8
オン/オフ	28
転送	8
パスコード	12, 27
不在転送先	19
ヘルプ	9
ログイン	10
メールボックスモード	7

ゆ

ユーザー	
オプション	8
ユーザーガイド	7

り

リングバック	28
--------------	--------------------

る

ループするあいさつ	25
-----------------	--------------------

れ

連続するあいさつ	25
----------------	--------------------

ろ

ログイン	10
内線番号から	10
別の内線番号から	11
ボイスメール	11, 29
リモートで	11
録音	
名前	13